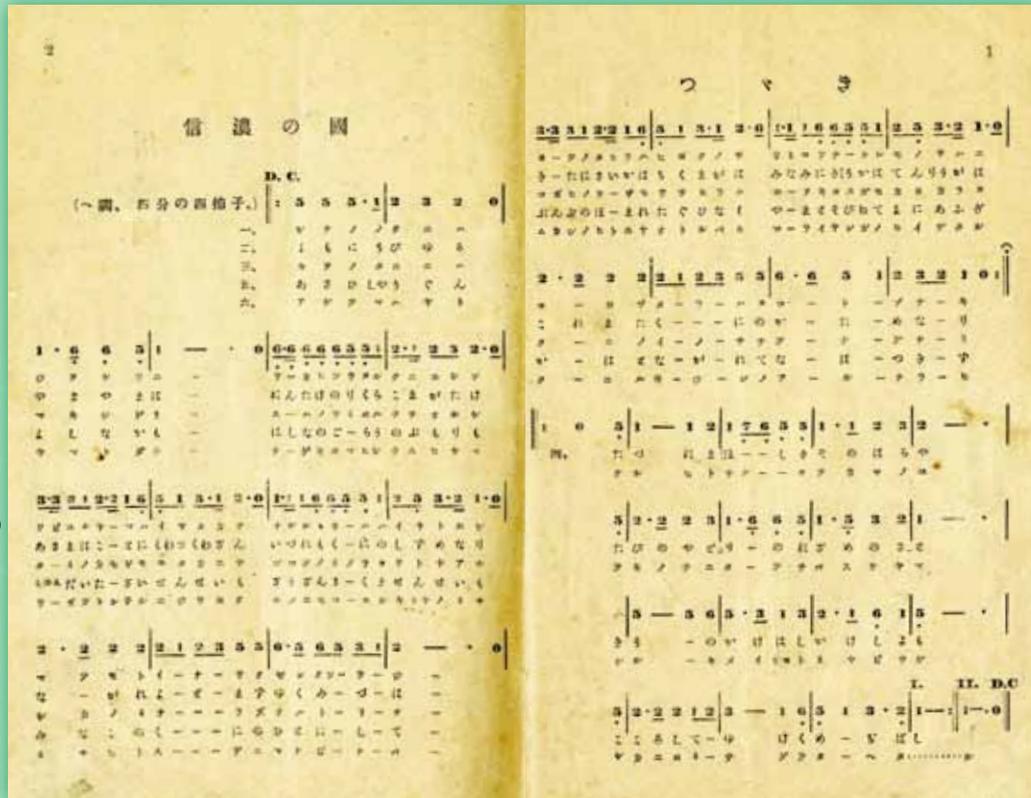


# あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.218 2018.9.1

長野県歌制定50周年記念特別展

## 「信濃の国と浅井洌」



「信濃唱歌」(明治39年)に掲載された「信濃の国」



浅井洌

「信濃の国」は昭和43年(1968)に長野県歌に制定されました。松本市立博物館・重要文化財旧開智学校校舎では県歌制定50周年を記念して、特別展「信濃の国と浅井洌」を開催します。教育者・詩人・書家・水泳、鉄砲の達人といった多彩な面を持つ洌によって、「信濃の国」が「どのようにして作詞されたか」について迫ります。

### 【会場】

松本市立博物館 2階特別展示室  
旧開智学校校舎 展示室

### 【会期】

10月13日(土)～11月25日(日)

### もくじ

- |                             |                      |
|-----------------------------|----------------------|
| 誌上博物館◇松本の住所と地名について……………2    | ガイドコーナー 展覧会……………6-7  |
| 馬場家住宅の土塁……………3              | ガイドコーナー はんでんぼく……………8 |
| 博物館TOPICS◇獄窓の歌人 島秋人……………4   |                      |
| 長野県歌制定50周年記念特別展「信濃の国と浅井洌」…5 |                      |

# 松本の住所と地名について

普段何気なく目にする住所表記の背景には明治以来の土地をめぐる事情と歴史があります。ここでは、その一端を紐解いてみたいと思います。

## 1 日本の住所表記

松本を含む日本の住所表示は大きく分けて2種類あります。「地番表示」と「住居表示」です。

「地番表示」は、住所に法務局で登記されている土地の番号を使用するもので、住所地の建物のある土地の地番をそのまま住所に使用します。

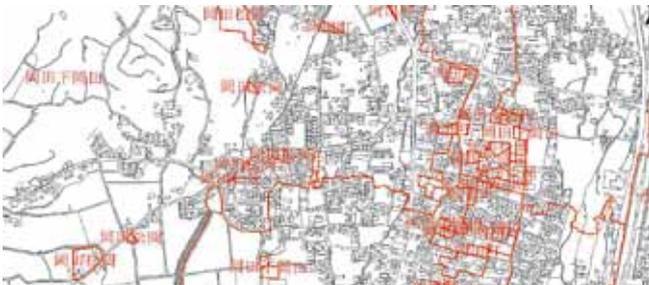
「住居表示」は住居表示法による新しい住所の表示方法で、土地の番号とは無関係に、市役所で建物の番号を調査・決定し、それを住所とします。通りではなく、道路に囲まれた「街区」を町の単位としています。

## 2 住所の歴史

江戸時代以前は郵便制度が未発達で、住所の番号というものは存在しませんでした。都市部であれば都市名+町名(通り名)+屋号、農村部であれば村名+(小字)+屋号で十分用が足りたものと思われます。

明治政府は全国の土地を把握するため、明治5年(1872)に壬申地券を発行し、明治6年には地租改正を実施しました。この時に付けられた地番は戸籍に使用され、近代の住所の基礎となりました。

当初、土地台帳は納税者単位で作成されたため、納税者が他町村に所有している土地があると、それも納税者の住所と同一町村となり、現代まで残る飛び地の発生原因になっています。



岡田地区の大字図 飛び地だらけ!

以後、100年近くにわたって地番による住所表記が行われてきましたが、都市化の進展とともに、郵送や運送上での不便さや分かりにくさが目立ってきました。これを解消するため、昭和37年(1962)に住居表示法が制定されましたが、従来の都市部の歴史的地名と、通り単位での区画割りを全面的に変更するものであったため、現在に至るまで賛否両論があります。

## 3 特殊な住所表記、海外の住所表記

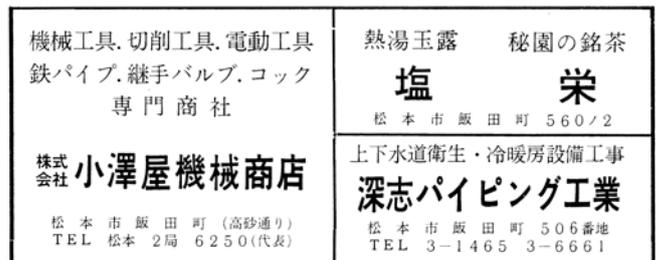
日本でも京都市の住所表記は他市と異なる独特な形態をとっています。京都市役所の住所は「①京都市中京区②寺町通③御池④上る⑤上本能寺前町488番地」となっており、⑤は町名+地番で他市と同じですが、②は南北の通り名、③は東西の通り名で、②③の通りが交わる交差点から、東西南北を東入る、西入る、上る、下るで表現して住所を示しています。

また、ヨーロッパを始めとする海外の多くの地域では、街路名+番地(左右で奇数・偶数が分かれる)で住所を表現しています。

日本の都市の古住所や京都、欧米の例からは、道で囲まれた街区よりも、通りを町名の単位としてナンバリングしていくのが自然発生的な住所の付け方であると言えそうです。

## 4 松本の住所

昭和40年に住居表示が実施されるまでは、松本の市街地は、明治22年合併前の旧町村名(北深志・南深志・桐・蟻ヶ崎等)に番地を加えた住所が正式で、これに通りが単位となった江戸期以来の旧町名(本町・飯田町・伊勢町等)を併記していましたが、一般的だったのは旧町名の方でした。



昭和40年の広告 旧町名(通り名)のみが使用されている

そのほかの地域は、昭和29年・49年・平成17年(2005)・22年の合併以前の旧町村名+地番がそのまま使用されています。

第一次、第二次の住居表示によって市街地の江戸期以来の旧町名はほとんどが廃止されました。その後、できるだけ旧町名と地元配慮を求める自治省の指導もあり、昭和50年代以降は旧町名が反映された住居表示になっています。

近年、松本でも旧町名を復活させようという声を聞くことがありますが、住所の変更は市民に負担のかかる大事業です。検討する前に、その歴史を正しく理解することも必要ではないでしょうか。

(松本市立博物館 学芸員/赤羽裕幸)

## 馬場家住宅の土塁

### 重要文化財指定の土塁

重要文化財馬場家住宅の周囲のうち、西側を除いて土手がめぐっているのをご存知でしょうか。これは土塁と呼ばれるものです。後で詳しく述べますが、一般的に土塁は防御施設あるいは区画のためと考えられています。



馬場家住宅の土塁(北側)

馬場家のものもそうであったのでしょう。また屋敷地の南北にはそれぞれ塩沢川・舟沢川が流れているので、その洪水除けのためであった可能性もあります。いずれにせよ、この土塁も馬場家住宅の屋敷地を構成する重要な要素であることから、主屋などの建物群と合わせて国の重要文化財の指定を受けているのです。

### 土塁って、なに？

そもそも、土塁とはなんのでしょうか。一言でいうと、城や居館を防御・区画するために築かれた「土手」ですが、城などであれば外側の堀と組み合わせてその効果を高めているのが一般的です。馬場家住宅では北側と東側部分の部分が特に明瞭に残っていますが、その外側には堀はありませんので、防御装置とするならば少し弱いように思えます。もしかすると元来はあったのでしょうか。

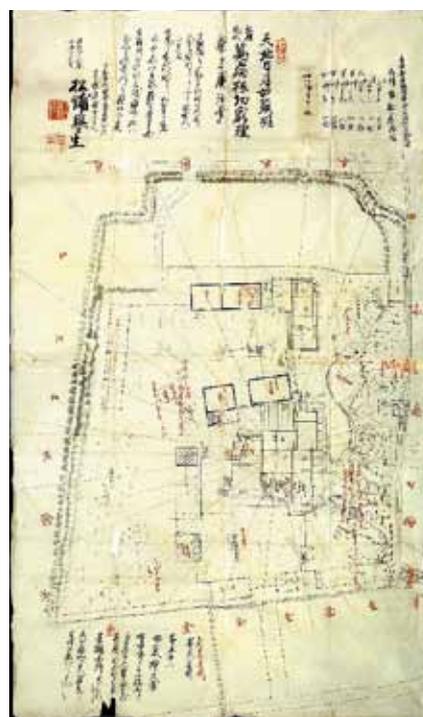
土塁は、馬場家住宅や松本城のような平地の館や城では主要な区域を囲むように造られることが多いのに対して、林城のように山の上に築かれた城では、尾根筋を遮断して敵の侵入を防ぐもの（堀切）や等高線に直交するように築いて敵の横移動を阻止するもの（堅堀）など、さまざまなバリエーションがあります。今回は馬場家住宅のような平地に築かれた（居館や城の）土塁について考えてみます。

### 家相図に見える馬場家住宅の土塁

では、馬場家住宅の土塁とはどのようなものだったのでしょうか。最初にふれたように一周はしていません。これは、明治28年（1895）に描かれた家相図にも表されているので、主屋などの建物が建てられた当初からこの姿であったようです。

下の家相図（左が北を示す）に基づいて土塁を

観察してみます。左上部分が欠けているのがわかります。この部分には墓地があり、北東部にあたることから、先祖の霊をもって鬼門除けとしたのでしょうか。次に右側です。こちらには土塁は描かれてはいませんが坪庭の築山と重なっています。土塁の高まり部分をそのまま坪庭に取り込んで



馬場家相図(馬場太郎氏蔵)

築山にしたのではないか、という想像もできます。下辺部には立派な表門などがありますが、ここに土塁は最初からなかったのでしょうか。それとも、この地に屋敷を構えた時点には土塁があったものを、幕末期に建物を整備した際に土塀と表門に造り替えた、とするのは考え過ぎでしょうか。

### 土塁から何がわかるのか

馬場家住宅は、主屋などが江戸時代末期に建てられた、豪農とも呼ぶべき古民家であることはよく知られています。その始まりについては不明な点もありますが、戦国大名武田信玄の家臣であった馬場信春の縁者であったという伝承があります。

今回の展示では、馬場家住宅を土塁で囲まれた武士の居館としてとらえています。松本市内外に残っている戦国時代の城館跡の土塁事例を紹介しながら、また周囲で行われた発掘調査で見つかった中世の遺構・遺物についても考察しながら、馬場家の成り立ちや実態はどのようなものであったのか、その真相に迫ります。

(重要文化財馬場家住宅 学芸員 / 澤柳秀利)

### 企画展「土塁・居館・馬場家」

[会 期] 9月15日(土)～10月28日(日)

[会 場] 馬場家住宅主屋

[料 金] 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)

# しまあきと 獄窓の歌人 島秋人

## 秋人の生い立ち

島秋人（本名：中村覚<sup>さとる</sup>）は、昭和42年、33歳の時に絞首刑で亡くなった、元死刑囚です。秋人は獄中で心の支えとして短歌を作っていました。



島秋人の自画像

秋人は、昭和9年に現在の北朝鮮で生まれました。父親は警察官で、満州や朝鮮半島の各地に赴任しましたが、太平洋戦争末期、家族は故郷の新潟県柏崎市へ引き揚げます。終戦をむかえて父は公職追放で職を失い、たちまち家族の生活は苦しくなりました。秋人は元来病弱で、結核やカリエスになり、7年間もギブスをはめての生活を余儀なくされます。その影響もあり、小中学校時代の成績は一番悪く、まわりから疎んじられ、性格も荒んでいきます。優しくかった母も、秋人が15歳のときに栄養失調で亡くなりました。

中学校卒業後、ガラス工やクリーニング店の店員として働きますが、長続きせず、そのうち強盗や殺人未遂、放火などの罪で特別少年院や刑務所に入りました。この間ヒステリー性性格異常と診断され、医療刑務所にも入ります。

そして昭和34年4月、飢えに耐えかねて一軒の農家に押し入り、主人に重傷を負わせ、その妻を殺害します。その後、37年に最高裁で死刑が確定し、執行を待つ身となりました。

## 短歌との出会い

獄中生活のなかで、秋人は自分の学校生活を思い返します。いつも周りから馬鹿にされていた生活の中で、中学校時代に唯一褒められたことを思い出しました。それは、中学1年時の担任、吉田好道先生の一言でした。吉田先生は図工の時間に秋人の絵を見て、「絵はへただが、構図がよい。」と褒めてくれました。秋人は獄中から、自分の現状とその理由を書き、児童画を見たいので送ってほしいという旨の手紙を吉田先生に出しました。返信には、児童画の他に、先生の奥さん（絢子さん）の短歌3首が添えられていました。それを読んだ秋人は短歌に魅力を感じ、作歌をはじめます。

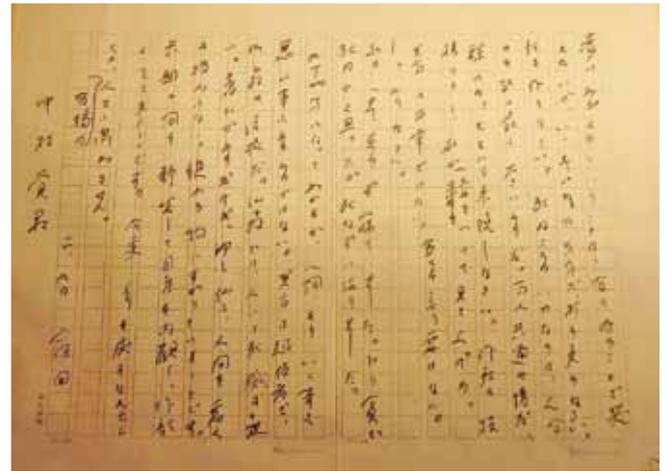
## 歌人・窪田空穂との交流

絢子さんの指導を受け、秋人は昭和36年から毎日歌壇に投稿を始めます。その時の選者が窪田空穂でした。そして同年1月28日に初入選します。

うす赤き冬の夕日が壁をはふ  
死刑に耐へて一日生きたり

こうして、秋人は空穂に認められて世に知られることになりました。

秋人と空穂は生涯会うことはありませんでしたが、短歌や書簡をとおして交流が続きしました。処刑の夢を見て怯える秋人に対し、「打ち克ちなさい。歌を作りなさい。作歌は私が気をつけて見てあげる。貴方は不幸ではない。縫れるものにすぎていることです」と答え、励ましています。



処刑に怯える秋人へ対する空穂の手紙

縫れよと歌を詠めよと云ひたまふ  
九十の師のみふみあたたかし

秋人は、空穂を師父と仰いで尊敬しました。また、空穂も作歌指導を通じて、死の恐怖や、罪の意識に苛まれる秋人を支え続けました。

今年度の展覧会では、この二人の交流や秋人の生涯を紹介するとともに、秋人が、いつ訪れるかも分からない死に対する恐怖と向き合う姿や、「いのち」に対する考え方をご覧ください。

（窪田空穂記念館 学芸員 / 小暮洋介）

## 企画展「いのち愛しむ ～獄窓の歌人 島秋人～」

[会 期] 9月15日(土)～11月25日(日)

[会 場] 窪田空穂記念館 会議室

[料 金] 通常観覧料 (大人 300円、中学生以下無料)

# 長野県歌制定 50 周年記念特別展「信濃の国と浅井泷」

松本市立博物館会場 Tel.0263-32-0133

## 「信濃の国」作詞以前の浅井泷に注目

今回の特別展は、唱歌「信濃の国」が“どのように作詞されたのか”というテーマのもと、松本市立博物館と旧開智学校校舎の2会場で開催します。

「信濃の国」とは、言わずとも知れた長野県の県歌であり、作詞者は浅井泷、作曲者は北村季晴<sup>すえはる</sup>になります。

「信濃の国」が長野県歌に制定されたのは、昭和43年(1968)ですが、実際にこの歌が誕生したのは、それより70年も前の明治32年(1898)になります。当時、浅井泷は長野尋常師範学校(現信州大学教育学部)で教諭を務めており、その同僚で音楽教師の依田弁之助が作曲を担当しました(第一の作曲)。ところが、この「信濃の国」はあまり歌われることはなく定着しませんでした。そこに、同年11月、依田の後任として、青森師範学校からやって来たのが北村季晴(東京府出身)です。在任中

に北村は「信濃の国」の第二の作曲を手掛け、明治33年、師範学校運動会で発表されています。これが現在まで歌い継がれる「信濃の国」となるのです。

本特別展では、「信濃の国」の書などを展示するとともに、浅井泷が何に影響を受け、どのような環境で育ってきたのか、といった作詞の背景となる点を紹介し、作詞者浅井泷の人物像に焦点をあてて、「信濃の国」作詞の謎を紐解きます。

(松本市立博物館 学芸員 / 伊藤雄太)



泷の研究ノート

## 特別展「信濃の国と浅井泷」 松本市立博物館会場

【会期】10月13日(土)～11月25日(日)  
 【会場】松本市立博物館2階 特別展示室  
 【料金】通常観覧料(大人200円、小中学生100円)

重要文化財旧開智学校校舎会場 Tel.0263-32-5725

## 「信濃の国」の作詞方法は?

旧開智学校校舎では、当時の資料をもとに、浅井泷の作詞方法の解明に取り組みます。

明治期郷土唱歌の白眉と評価される「信濃の国」の作詞については、様々な言及がなされていますが、“そのどれもが確証を得られていない”という状況です。その理由は、浅井自身が作詞について「深く考慮もせず、只地理歴史の事柄を取合せて叙述したに過ぎません」と述べたのみで、作詞過程の詳しい記録が残っていないことによります。

「信濃の国」はどのようにして作詞されたのか。

このテーマに対して、旧開智学校校舎では教育博物館ならではの手法で迫ってみたいと考えています。「信濃の国」は、小学校高等科1年(現在の小学5年生)の児童用唱歌として作詞されました。当時の小学校用の郷土地理歴史系の教科書を見ると、「信濃の国」の歌詞との興味深い関連性が浮かんできます。一例を挙げると、明治20年の地理教科書に掲載された、長野県内の主要な山岳の一覧表を見ると、「信濃の国」の2番にでてくる3つの山岳が、歌詞と全く同じ順番で紹介されています。

他にも、「信濃の国」と教科書のリンクはいくつか明らかになっています。展示室では、こうした教育内容とのリンクについて、資料をもとに紹介していきます。

このように、旧開智学校校舎では、「信濃の国」

の作詞方法について、教育博物館ならではのアプローチで迫ってみる展示となります。ぜひ、会場で資料をご覧になりながら、「信濃の国」の作詞方法について一緒に考えてみてください。

(重要文化財旧開智学校校舎 学芸員 / 遠藤正教)

名稱	位置	高度
御嶽	西筑摩郡ニアリテ飛	一、〇五〇
乗鞍嶽	南安曇郡ニアリテ飛	一、〇四五
駒嶽	伊那郡飛騨ノ郡境ニ	九七〇〇
鎗嶽	南北安曇ノ境ニアリテ	九六六〇
甲武信嶽	南佐久郡ニアリテ甲	九五六〇
八ヶ岳	南位久津路ノ間ニ	八九九一

澤辺慶作編『小学信濃地誌略』明治21年訂正  
 当時の計測による標高順に山岳の名前が並んでいる

## 特別展「信濃の国と浅井泷」旧開智学校校舎会場

【会期】10月13日(土)～11月25日(日)  
 【会場】旧開智学校校舎展示室  
 【料金】通常入館料(大人300円、小中学生150円)

## 展覧会が目白押し

## 博物館の秋



## 子規忌展



自作正岡子規之像

子規忌は、明治の俳人・歌人である正岡子規の命日（9月19日）です。子規は、俳句や短歌など多彩な分野で活動しており、日本の近代文学に大きな影響を与えました。

松本出身の歌人・民俗学者である胡桃沢勘内（1885～1940）

は、子規に憧れを抱いた一人であり、文学・民俗学にかかわるさまざまな資料を収集・保管していました。そして、胡桃沢家では毎年、子規の石膏像と掛け軸、鶏頭の花などを供えて子規を偲んできました。

平成14（2002）年に「胡桃沢コレクション」として松本市立博物館に寄贈されてからは、博

物館でも子規忌に合わせて毎年展示を行っております。本年度は、近年新たにお預かりした資料の中から子規に関する資料を展示いたします。どうぞご覧ください。

（松本市立博物館 学芸員 / 塚原有香）

会 期 9月8日(土)～24日(月)  
会 場 松本市立博物館 1階ロビー  
料 金 通常観覧料(大人200円、小中学生100円)

## 関連事業 復活 話をきく会

日 時 9月8日(土)午後2時～4時(予定)  
会 場 松本市立博物館 2階講堂  
演 題 「“身代わり”という文化装置—ものぐさ太郎譚を手がかりに—」  
講 師 小松和彦氏(国際日本文化研究センター所長)  
料 金 通常観覧料(大人200円、小中学生100円)  
問合せ 松本市立博物館へ(☎0263-32-0133)

## 旧制高校有名教授展

旧制高等学校の先生は学才の優れた方々でしたが、大学の入試の対策などという“俗事”には全く関心もありませんでした。高校の課程とは関係ない超高等数学の講義をする数学教授や、一年中硫酸の話だけの化学の先生もありました。学生たちはそんな大学入試とは何の関係もない講義を聞きながら、必要な勉強は自分たち

でやっていたのでした。そして俗世間で必要な事などは何も教えてくれなかった高校の先生方の思い出は、終生忘れられぬ宝として心に残るのでした。

旧第一高等学校の有名教授としては、夏目漱石の「三四郎」で“偉大なる暗闇の哲学者”広田先生のモデ



岩元禎先生

ルとなったと言われる岩元禎先生が挙げられます。岩元先生の授業は書き込みも許さぬ厳しい講義などで恐れられ、数々の伝説を残しましたが、生涯先生を慕う学生も多かったといえます。

今回の企画展では、何よりも旧制高校とその学生たちを愛し、大学教授への栄達も拒んで、生涯を高等教育に捧げた先生方について紹介します。ぜひ足をお運びください。

（旧制高等学校記念館 / 谷喬・石原花梨）

会 期 10月13日(土)～12月9日(日)  
午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日…月曜日(祝日の場合は翌日休館)  
会 場 旧制高等学校記念館1階ギャラリー  
料 金 無料(常設展は通常観覧料)  
問合せ 旧制高等学校記念館へ(☎0263-35-6226)

企画展 **今昔はかり展**

松本市はかり資料館では、毎年「今昔はかり展」と題し、テーマを変えながら、昔の「はかり道具」を展示しています。今年は守随家の秤、錘に焦点をあてた展示をおこないます。

守随家とは、江戸時代に東33国の秤に関する権利を独占していた一族です。守随家が製作した秤は「守随秤」と呼ばれ、現在まで伝えられています。



守随家が制作したおもり

秤と錘は、一見する

とどれも同じように見えるかもしれませんが、よく見てみると、さまざまな情報が詰まっていることに気が付きます。この機会に、秤、錘の新しい見方をぜひ発見してみてください。

会 期 10月26日(金)～11月25日(日)

会 場 松本市はかり資料館

料 金 通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)  
※松本市民祭で中町通りが歩行者天国となる11月3日(祝土)は無料開館となります。

問 合 せ はかり資料館へ(☎0263-36-1191)

## 建築講座「松本のたてもの2018」パネル展

歴史の里では、毎年、市内で活躍する一級建築士の方々と協働で、市内の歴史的建造物を紹介する展示を開催しています。5回目となる今年は、松本市内にある“くら(蔵・倉・庫)”に焦点を当てご紹介します。

一言で“くら”といっても、その目的や用途、形などは様々です。物を貯蔵する施設としての用途はもちろんのこと、酒や味噌などを生産し加工するための施設や生活のための居住施設としても利用されています。更には、古くは神殿的な性格をもった施設であったとも考えられています。“くら”はその多様な役割により、日本の生活形式を支えるのに欠くことのできない施設であると言えます。

私たちは普段の生活の中で、多くの“くら”を目にしていますが、日常の風景の中に溶け込んだ“くら”を歴史的建造物として意識することは少ないかも知れません。当パネル展を通じ、身近にある“くら”の魅力を感じていただければ幸いです。

(歴史の里 学芸員/八木瑞希)

会 期 9月29日(土)～12月24日(月・祝)

会 場 松本市歴史の里 展示・休憩棟

料 金 通常観覧料(大人400円、中学生以下無料)



中町

## 関連イベント

専門家による展示解説や講座、講演会などを通して、より具体的な“くら”の特徴と魅力に迫ります。

## ①展示解説・建築講座

日 時 10月6日(土)午前10時～正午

会 場 松本市歴史の里

定 員 30名

料 金 通常観覧料(大人400円、中学生以下無料)

講 師 ●展示解説：地元の一級建築士の皆さん  
●建築講座：川上恵一氏(一級建築士)

## ②講演会

日 時 10月13日(土)午前10時30分～正午

会 場 松本市歴史の里

定 員 30名

料 金 通常観覧料(大人400円、中学生以下無料)

講 師 梅干野成央氏(信州大学工学部准教授)

## ③中町たてもの見学会

日 時 10月27日(土)午前10時～正午

集 合 蔵シック館

定 員 20名

料 金 無料

講 師 地元の一級建築士の皆さん

申 込 み いずれの講座も電話で歴史の里へ(☎0263-47-4515)

①は9月19日(水)午前9時から、②、③は10月5日(金)午前9時から受付開始(いずれも先着順)。

**9月21日は 松本市博物館の日 今年9月21日(金)！松本まるごと博物館全館が無料開館！**

松本市立博物館の前身である「明治三十七、八年戦役記念館」は、明治39(1906)年9月21日に誕生しました。この日を記念して、9月21日(金)に松本まるごと博物館全館を無料開放します。当日は、各館でクイズラリーや記念オリジナルグッズを配付しますので、ぜひお越しください。

**松本市立博物館から ☎0263-32-0133**

**復活 話をきく会**

日時 9月8日(土)午後2時～4時(予定)  
 演題 「“身代わり”という文化装置—ものぐさ太郎譚を手がかりに—」  
 講師 小松和彦氏(国際日本文化研究センター所長)  
 会場 松本市立博物館 2階講堂  
 料金 通常観覧料(大人200円、小中学生100円)

**歴史の里から ☎0263-47-4515**

**たてもんの探訪ツアー「近代建築 バス見学会」**

市内で活躍する一級建築士の皆さんと岡谷・諏訪方面の近代建築をバスでめぐります。  
 日時 9月17日(月・祝)午前9時～午後4時30分  
 集合 歴史の里  
 定員 15名(先着順)  
 料金 1,900円(入館料・昼食代込み)  
 講師 川上恵一氏、藤松幹雄氏、米山文香氏、北村浩康氏(いずれも1級建築士)

**はた織り体験講座**

はた織り機を使って裂き織りの作品を作ります。  
 日時 9月26日(水)、10月23日(火)  
 いずれも午前10時～正午と午後1時～3時  
 会場 松本市歴史の里  
 対象 大人  
 定員 いずれも午前・午後とも各5人  
 料金 1,000円  
 講師 川上裕子氏

**草木染め体験講座**

コスモスを使ってストールを染めます。  
 日時 10月28日(日)午前9時30分～正午  
 会場 松本市歴史の里  
 対象 大人  
 定員 10名  
 料金 2,000円  
 講師 歴史の里 染めの会  
 申込み いずれも各月の5日午前9時から電話で歴史の里へ

**窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440**

**企画展記念講演会**

**「死刑囚の短歌は問い掛ける～連載「いのちと償い」から」**

日時 10月20日(土)午後1時30分～3時  
 講師 上野啓祐氏(信濃毎日新聞記者)  
 料金 無料

**Tango Duo Concert in 窪田空穂生家**

窪田空穂生家を会場にコンサートを開きます。趣のある空間で、ヴァイオリンとピアノによる秋の調べをお楽しみください。

日時 10月28日(日)  
 午後1時30分開場、2時開演  
 奏者 小林萌里氏、外園美穂氏  
 料金 前売:2,000円、当日:2,500円  
 ※両コース共通  
 会場 窪田空穂生家(窪田空穂記念館向かい側)  
 定員 50名  
 申込み 電話で窪田空穂記念館へ

**重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070**

**お茶席の会**

日時 ①9月23日(日)  
 ②10月28日(日)  
 午前10時～正午  
 会場 重要文化財馬場家住宅主屋  
 流派 ①おしやれ茶道の会(裏千家)  
 ②松風の会(表千家)  
 料金 通常観覧料(大人300円)

**布ぞうり作り体験教室**

オリジナルの布ぞうりを1足作ります。自分だけの作品を作ってみませんか。  
 日時 9月22日(土)、10月27日(土)  
 午前10時～午後3時  
 場所 馬場家住宅主屋  
 定員 10名  
 料金 1,800円

**はた織り体験教室**

小学校高学年から大人まで、老若男女どなたでも気軽にはた織りを体験できる講座です。  
 日時 9月15日(土)、10月20日(土)  
 午前9時30分～正午、午後1時30分～4時  
 場所 馬場家住宅南門長屋  
 定員 午前・午後各4名  
 料金 1,000円

**松本民芸館から ☎0263-33-1569**

**クラフトピクニック関連企画 民芸館体験講座**

**①「真竹で器を作ろう」**

日時 10月13日(土)午前10時～正午  
 定員 各10人(要予約)  
 料金 1,000円(入館料別途)  
 講師 小田詩世氏

**②「布ぞうり作り」**

日時 10月14日(日)午前10時～午後3時  
 定員 各10人(要予約)  
 料金 1,500円(入館料別途)  
 講師 秋山啓子氏  
 ※両コース共通  
 会場 松本民芸館  
 共催 長野県民芸協会  
 申込み 電話で松本民芸館へ

**企画展「土壘・居館・馬場家」関連事業 講演会「松本平における居館の土壘(仮題)」**

日時 9月30日(日)午後1時30分～3時  
 会場 馬場家住宅主屋  
 講師 青木教司氏(前松本城管理事務所研究専門員)  
 定員 30名  
 申込み 9月5日(水)午前9時から電話で馬場家住宅まで

**土壘のある古民家・館跡バス見学会**

日時 10月8日(月・祝)  
 午前8時から午後5時の予定  
 見学地 安曇野市本陣等々力家他を予定  
 解説 当館学芸員ほか  
 定員 20名  
 料金 2,000円(入館料・食事代含む)  
 申込み 9月19日(水)午前9時から電話で馬場家住宅まで

**馬場家住宅土壘見学会**

日時 10月14日(日)  
 午前10時～11時30分、午後1時30分～3時の2回  
 会場 馬場家住宅周囲の土壘・祝殿ほか  
 講師 当館学芸員  
 定員 各20名(申込み不要)

**内田・寿地区土壘ウォーキング**

日時 10月21日(日)午前10時～午後3時  
 場所 小池砦・赤木北城ほかを予定  
 講師 当館学芸員ほか  
 定員 20名  
 申込み 10月5日(金)午前9時から電話で馬場家住宅まで

**あとがき**

「雲よむかし初めてこの野に立ちて草刈りし人にかくも照りしか」これは、夏に空穂が故郷の和田を詠んだ歌です。農村の澄みきった空やそこに浮かぶ白雲、そして明るくまぶしい日ざしの中にある様子を歌にしています。夏の暑い日に外を歩いていると、この歌の情景が浮かんでくるように感じます。(Y.K)

**あなたと博物館 No.218**

発行年月日/平成30年9月1日  
 編集・発行/松本市立博物館  
 〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133  
 URL: http://www.matsu-haku.com  
 e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp



印刷 川越印刷株式会社